

今後取り組むべき課題に係る、
第11回会合におけるご意見
(まとめ)

平成26年2月18日
事務局

第11回会合において構成員から出されたご意見(まとめ)

技術シーズ主導ではなく、ニーズ主導での議論(社会的課題の解決からのアプローチ)とすべき

- 社会課題にフォーカスを当てて、そこからブレークダウンしていくのか、それとも、技術ベースに、どう発展させていくのかという、そのどちらかによってアプローチが違う。議論のバウンダリーをはっきりさせるべき。
- 解決すべき社会的な課題から議論を関連づけていく方が、本委員会ではやりやすいのではないか。
- 全体としてシーズアウトでの議論となっていないか。イノベーション創出の為には、ユーザーというものを意識した議論をすべき。ユーザー(日本国民、居住者、企業)に対して、どのような技術を活用して、どのような最終的な製品、サービス、付加価値を提供するのかという設定がまずは大事。
- 解決したい社会的課題をより具体的に議論する必要。破壊的なイノベーションを国としてリードするには、非常にアグレッシブな目標設定(例:ITSで10年後に東京都内の自動車の交通を全自動化等)が必要であり、タイムラインを含めて具体的に設定。それに対する必要な要素技術というのをリストアップしていくような議論の組み立てが必要。
- 社会的インパクト、経済的なインパクトの一番高いところにリソースを集中していかないといけない。そのようなプライオリティづけをしながら、より大事な課題を抽出して、ターゲットとして設定していくというプロセスも大事。いろいろな社会課題を掘り下げて、その中でプライオリティをつけていくという議論がより重要なのではないか。

第11回会合において構成員から出されたご意見(まとめ)

中間答申第6章(先行的なパイロットプロジェクト)の尊重しつつ、議論を進めるべき

- アプリケーション技術や基盤技術、そしてパイロットプロジェクトという形でまとめた中間答申のアプローチを踏まえて検討すべき。
- 中間答申第6章で示された技術課題が1つのベースになる。その上で、そこから新たに発生した問題として、2020年の東京オリンピックについて、どのように入れていくかという点を、整理しておく必要がある。
- 中間答申第6章に示された4つのテーマは、日本の得意分野でもあり、国際競争力を考える上で、非常に適したテーマだと思う。

国際連携・標準化についても、しっかり議論すべき

- 海外、特にアジアとの国際連携は、実際にプロジェクトを進めていく上で大変重要。
- 標準化について、どういう項目をどういう視点で標準化する必要があるか、あるいはそれをどういう体制で、かつ、どう連携してやっていくかは大変重要な課題。特にこういった国プロ的なものは、そういったものをしっかりやっていかなければならない。国際標準化そのものについてももう少し掘り下げ、答申の中でも強調することが必要。

第11回会合において構成員から出されたご意見(まとめ)

よりわかりやすくするため、ビジュアライズ化をしっかりと行うべき

- 重点的に取り組むべき技術分野について、丸い表にして、真ん中に一番のテーマみたいな今後の重点分野を書いて、そして扇形のようにまとめると、どのジャンル、どの分野にご意見が多くてというのが見やすいのではないか。(可視化をして欲しい)
- 自分たちが解決しようとしている課題に対して、一体、どの位の時間的余裕を持っているのを見える化することも大事。それに対して、ICTが非常に重要な役割を果たすわけであり、ビジュアライズの工夫をして欲しい。

その他(検討にあたり留意すべき事項)

- エンドユーザー側から見たインフラの強化というところが重要。有線と無線というものを融合し、強化していくというようなことを検討する必要がある。
- 必ずしも全ての分野が網羅されていない。教育、農業等、ほとんど書かれていないが、見方によっては非常に重要な課題ではないかと思う。公表にあたっては、委員が主観的に挙げた利活用の例に過ぎないという位置づけるべき。
- エネルギー分野についてもしっかりと取り組んでいくことが重要。
- 東京オリンピックにおけるICTでの顧客価値、ジャパンプランドは、1に感動、2に安心、3におもてなし。そういう視点も参考にすべき。